

昭和56年3月 第2号
海蔵社協通算 第23号

かいぞう

地区広報



春に備えて寒風の下 枯草を刈る保勝会の皆さん

春は桜花……

“花”という言葉が、梅から桜をさすようになったのは、いつの頃からか詳ひらかではありませんが、いずれにしても桜花が古い時代から、日本人の心を和ませてくれたことは確かでしょう。

なま暖かい南風の中で、淡い色を咲かす時、不思議な程、過去の思いや明日への希望が私たちの脳裏をかすめるものです。

二十余年の

努力が実って

“海蔵堤を桜の名所に”と願って、海蔵堤保勝会が設立されたのが昭和三十四年。以後、満開の桜を夢見してお世話された皆さんのお陰で、今では屈指の並木となり、春にはこの海蔵地区民だけでなく、全市民の目を楽しませてくれます。

近年、どここの河川も丈夫なコンクリート護岸堤に改修されるにつれ、桜並木も年々減少して参りました。だからこそ、今この保勝会の活動が一層大切になつてきていると言えるでしょう。今日もまた、寒風の中、黙々と枯草を刈る会員の方々の姿が見られます。